



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 19 年 (2007)

平成19年 新春号 (77号)

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

生命の尊さに感謝を……………	2 頁
杜の話題……………	3 頁
春に向けて……………	7 頁
どんぐり通信……………	8 頁
初宮詣芳名……………	9 頁



小笠原流の除魔神事「墓目の儀並びに大的式」(一月二日)

平成十九年丁亥歳の新春に当たり

謹んでご皇室を中心とする国家の隆昌と
氏子・崇敬者の皆様のご清福を熱禱申し上げます

ご社頭の大宮桜(冬桜)が例年になく美しく咲き競っている中に新春が明けました。

昨年は何をしておいても悠仁親王さまがご誕生になられた事は、ご皇室に四十二年振りと言うご慶事でこれに勝る慶びはございませんでした。

年の始めに当たり、ご皇室の弥栄と親王殿下のご生誕を心からお慶びを申し上げるとともに、無事に健やかに成長されることをお祈り申し上げる次第でございます。お蔭様で当宮に於きましては昨年年度のご神恩を戴きつゝ、ご敬神の念の篤い氏子・崇敬者の皆様のご理解あるご協力とご支援のもと、年間の諸祭儀並びに諸行事を滞りなく順調に進捗させて頂くことが出来ました事を、誠に有難く感謝致しております。

なかでも懸案でありました敬神婦人会(りんどう会)が結成されました事はお目出度く今後、女性の立場での活動が大いに期待されているところでございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて明いご慶事の反面、子どものいじめ問題や自殺が連日の如く報じられる中で、年明けでもありました。国会でも教育基本法の改正案が衆議院を通過し、いま参議院で審議中ですが、青少年に対する問題意識がいよいよ高まり、政府の教育再生会議で色々と議論されています。事勿れ主義の実態隠しの休眠状態の様な教育委員会が白日のもとに曝け出され、いよいよ学校や地域社会や各家庭が心して連携し本格的に取り組まねばならない緊急事態となり、その試案が纏められ、「いじめ問題への緊急提言」として発表されました。はたして、学校内のいじめ問題の根源は子供達にあるのでしょうか。その前に私共の大人社会が悪いお手本を示しているのではないのでしょうか。

例えばテレビの国会中継を観ていても、

悠仁親王

はしたなく陰湿的な、相手を只攻撃しているだけの姿や国政に直接関係のない様な質問を連発する等言論を勝つた様でも、何ら国益が伴っていないしむしろ深々と頭を下げているトップの姿など、謂ゆるいじめの構図の原点の様な場面を数多くみている内に、知らず知らずのう

反映されております

に心に浸透して、いつの間にかいじめが当たり前の様な錯覚に陥った社会構造が出来上がってしまったのではないのでしょうか。悪い見本が子供達に実践に心掛ける時期が到来しているのです。

今、日本では一年間三万人もの人が自ら命を絶っていると言います。いじめを苦に自殺する子供達(小中学生)や、親が子供を殺したり子が親を殺すと言う忌々しい事件も頻発しています。

あらゆる生物は自分の子孫を残す為に一生懸命に生きているのです。全ての動物は子離れのするまで本能的に子供を守り育てます。大宮八幡の杜には鳥が数多く生息していますが、巣立ちまでの雛鳥を護る親鳥の姿はさまざまのものがあります。まして霊長動物の人間が自分の産んだ子を殺すなどあつてはならぬ事なのです。

いのち 生命の尊さに感謝を

宮司 鎌田紀彦

年末新幹線の車中で「ウエッジ十二月号」をみておりまして、「科学万能主義が人間を劣化させている」と言うタイトルの目にとまりました。生命科学者で筑波大学名誉教授の村上先生のことばです。

『生命や心など目に見えないものの価値がおろそかになっている。遺伝子の研究を通じ三億年間つなげてきた生命の神秘と、生命を作り出した「人間を超える力」(サムシンググレート)の存在を感じて来た。それを感じることで、自分が生きていくことの有難さがわかる。その謙虚さが精いっぱい生きる力を生む。科学によって理解できる知識がすべてだとする生き方が、人間を劣化させている。このままでは、社会は荒み、危うくなるばかりだ』と警鐘を鳴らされているのです。

『ピトの身体には宇宙の進化の歴史が凝縮されている。どんな未熟な人も全宇宙を背負って生きている。命は自分だけのものではない。そういう意味で命は尊い。自分の命も、他人の命も、壊すのは簡単だが、一度壊したら二度とつけない。命を粗末にすることは、大自然が三七億年かけて作り上げてきた最高傑作を無駄にすることになる。この世に生まれてきたこと自体、途方もない奇跡的な出来事なのだ。生きているだけでも有り難く、素晴らしいことだから、自殺も他殺も絶対にしてはいけない。この世に生かされていることに感謝しよう』

と述べられ、さらに

『私たちは生まれてきたことを喜び、生かされていることに感謝すれば、多くの眠っている良い遺伝子の働きがオンになる。あきらめず、努力し続けられ、必ずあなたの遺伝子は目覚め限らない可能性を引き出せると思つて』と結んでおられます。とても解りやすい文章でありますので、そのまゝ転載させて頂きました。が、科学者のことばには説得力があります。

今、無宗教であることが知識人の最高のステータスであるようですが、何ら心の拠り処には成り得ないのではないかと思います。

謂ゆるサムシンググレート(大いなるもの)の存在を認め信ずるか、否かが信仰のある人と信仰を持たない人の違いではないでしょうか。かつて子供の頃からお天道さま、目に見えぬ神々やご先祖様がみて居られるから嘘はつくな、恥しいみつともない事はするなと、たえず親から厳しく云われ乍ら育てられ、自然と社会生活のベースである善悪の判断基準が教えられ、倫理感や公共心、連帯感がある善悪の判断基準が教えられ、神々やご先祖様と無縁の生活では心のゆとりも安らぎも得る事は出来ません。

朝夕に神仏に手を合せ、神仏に守られ、生かされていることを常に実感し、命の尊さを知り感謝するべきなのです。

家庭の再生は、家を斉え治めることであり、家族俱々家のまつりをしっかりと行つていきますと、自然と明るく楽しいプラス指向の生活が築かれるものと確信しています。又、

この様なご家庭にこそ、必ず神々のご加護と祝福があるのです。

本年もご神威輝やく大宮八幡宮の新春のご社頭にお詣り戴き、神々のご神縁を更に深く結んで頂き、幸せ多き年でありますよう祈念致し年頭の挨拶と致します。



元旦午前零時、初太鼓



ご社頭の大宮桜(冬桜)

杜の話題

ひさひと
悠仁親王殿下ご生誕

秋篠宮家には九月六日朝、全国民待望の親王さまがご誕生になり、御名は悠仁と命名されました。当宮ではご誕生に先立つ九月一日、朔旦祭にあわせ秋篠宮妃殿下御安産祈願祭を斎行、また以降出産当日まで毎朝日供祭において安産祈願を奉仕。

悠仁親王殿下の
ご誕生を
心よりお慶び申し上げます

ご生誕後は十五日例大祭にあわせ悠仁親王殿下御誕生奉告祭を斎行、親王さまのお健やかなるご成長をご祈念申し上げます。



献幣使祭詞を奏上(例大祭)



この他十六日には大宮幼稚園児による民謡踊りや方南エイサー隊むるち組の小中学生らによるエイサー踊り、立正佼成

平成十八年秋の大祭・大宮八幡祭りが去る九月十四日より十八日の間行われ、十五日は例大祭、十七日には氏子奉幣祭(奉祝当日祭)を斎行、十七日夕刻には第二十二回の神輿合同宮入りが行われ、社頭が賑わいました。

例大祭並悠仁親王殿下御誕生奉告祭は神社本庁献幣使平岩昌利東京都神社庁長(代々木八幡宮宮司)のご参向を得て十五日午前十時より斎行。次いで十七日の氏子奉幣祭ではまづ氏子四地区より寄せられた赤誠の籠もる氏子幣が副奉幣使五本木徳治責任役員によつて大前にお供えされ、奉幣使田木千城夫責任役員が氏子祈願詞を奏上、氏子各位の安泰と郷土の発展を祈願しました。

同日夕刻六時よりは第二十二回神輿合同宮入り。今年は方南西地区も加わり、氏子四地区八



第21回 神輿合同宮入

大宮八幡祭り(秋の大祭)

第八回 菊被綿飾り

大宮八幡祭りに合わせ九月九日より十八日の間、重阳の節句の行事、第八回菊被綿飾りが清涼殿ロビーで再現公開されました。

この行事は平安時代以降、宮中を中心に九月九日の重阳の節句の行事として広く行われたもの。前日より菊花を真綿で覆い、九日、朝露で菊香の移った真綿を顔にあて不老長寿も願ったといひます。

期間中、清涼殿ロビーには赤、白、黄の被綿二百鉢が展示されました。



小笠原流弓馬術「騎射の形」初奉納



氏子幣・奉幣使参進(氏子奉幣祭)

敬神婦人会 結成

当宮敬神婦人会（りんどう会）がこのほど発足、去る九月一日には来賓の久邇正子全国敬神婦人連合会会長、平岩昌利東京都神社庁長ほか九十余名のご参列を得て結成奉告祭・結成式が執り行われました。



結成式ではまづ、平成十五年の当宮御鎮座九四〇年にあがり、十八年四月の姉妹友好神社・竹駒神社の敬神婦人講の当宮への参拝

りんどう会役員名簿

会長	鎌田 民枝
副会長	高橋 芳子（方南北）
同	五本木 秀子（大宮）
同	堀友 美延（方南南）
常任理事	小松 茂登子（大宮）
同	真垣 明美（方南北）
監事	山本 すみえ（大宮）
同	細野 弘子（方南北）
理事	中川 千代子（方南南）
同	森川 カツノ（和田）
同	菅又 春子
事務局長	提箸 照之（権瀬宜）



に合わせ第一回準備委員会を開催、氏子四地区選出の委員により五回に亘る会合が重ねられ、会員勧誘などを推進、既に三百三十余名の入会があること

など経過を報告。議事では「敬神崇祖の念の次世代への普及継承」などを諸事業とする会則を承認、鎌田民枝会長ほか新役員が選出されました。

鎌田会長は「女性の立場で神徳宣揚に努め、祖先より受け継ぐ郷土の伝統文化の氏神信仰を後世の守り伝えたい」と決意を表明。

続いて祝賀会では山田杉並区長も駆けつけて頂き激励のご挨拶を頂いた後、女優の岸ユキさんの発声で乾杯が行われ、和やかな懇親に移りました。

敬神婦人大会岡山大会参加

りんどう会結成後の初めての事業として去る九月岡山で開かれた全国大会に当会執行部が参加しました。

全国敬神婦人連合会（久邇正

子会長）の第五十七回全国敬神婦人大会岡山大会は池田厚子神宮祭主様を来賓としてお迎えし、去る九月二十七日岡山市内のホテルで開催。当宮婦人会より鎌田会長、高橋、堀友両副会長、提箸事務局長が出席しました。



敬神婦人会（りんどう会）

入会のご案内

当敬神婦人は氏神様への女性ならではの奉仕を通じて地域社会の発展にいささかなりとも寄与したいと、氏子各地区の方々によって結成されました。

神社の祭典行事への積極参加を始めたとする諸活動が行われます。奮ってのご入会をご案内申し上げます。

年会費 一口五百円

謹 賀 新 年

平成十九年元旦

大宮八幡宮

代表役員 宮司

鎌田 紀彦

責任役員

高橋 住雄

五本木 徳治

田木 千城夫

梅田 清夫

瀬沼 寿男

藤枝 宏友

長岡 浩一

黒澤 四郎

毛塚 克彦

細井 嘉次

古谷 孝治

関澤 兼司

五本木 徳治

請井 勝雄

関 又治

五本木 正治

毛塚 克彦

青木 龍雄

根岸 辰行

方南南地区

三枝 栄治

田木 千城夫

黒澤 浩一

大塚 喜一

相川 貞雄

三枝 太郎

方南北地区

高橋 住雄

細野 嘉次

細井 一善

岩田 文雄

岩崎 太良

鈴木 憲章

和田東地区

生形 勝巳

梅田 清夫

齊藤 康夫

笠原 紀一

玉村 恭男

和田西地区

飯高 朝資

浅川 静男

藤谷 孝治

森川 純一

松ノ木地区

瀬沼 芳蔵

松島 一男

松島 四郎

高野 春男

関澤 兼司

松島 武治

兼務神社総代会長

堀ノ内熊野神社

大高 正朝

成宗白山神社

岩田 和保

尾崎熊野神社

安藤 雄次

莊村清志氏の奉納演奏 第六回 十五夜の神遊び 月の音コンサート

当宮恒例の「十五夜の神遊び」が去る十月七日夕斎行され、世界的なギター奏者の奉納演奏もあって、仲秋の名月のもと境内は参拝者で賑わいました。

神遊びとは神慰め、神祭りのこと。十五夜の神遊びは平成十三年以来行われているもので今年で六回目。当日午後六時、境内ではまづ献灯神事が行われ、参列者によって二千基の竹灯籠の浮き蠟燭に火が点されました。仲秋祭奉仕後、神楽殿では雅楽・神楽舞の奉奏、そして杉並区文化協会の後援による月の音コンサートが催されました。

今年は日本ギター界の第一人者、莊村清志さんがソロ演奏を奉納、月明かりに爪弾く名曲の数々、透き通った究極の音色は境内二千人の陪観者を月と音、そして神々とい体の世界へと誘いました。



コンサート終了後、清涼殿では「月見の宴」が催され、ご参加の皆様はこの日に因んだ新作料理「月見御膳」に舌鼓を打っておられました。

尚、明十九年度の第七回「十五夜の神遊び」・月の音コンサートは、九月二十四日(休)に予定されております。

杉並宗教者 世界平和の祈りとつどい

杉並区内の各宗教が一堂に会した「世界平和の祈りとつどい」が去る八月三日、立正佼成会杉並教会で開催されました。この集いは杉並宗教者懇話会(世話人代表・当宮宮司)が八月末の世界宗教者平和会議京都大会に合わせ区内で初めて催されたもの。

杉並教会婦人部による献灯献花に続き各宗教の祈りが奉仕され、まず神社神道の祈りを当宮ほかにより斎行。祝詞奏上のおと、浦安舞が奉奏されました。ついでキリスト教(救世軍)、仏教(日蓮宗)、イスラム(日本ムスリム協会)、天理教、立正佼成会の順により世界平和への祈りが各々行われました。



都八幡会が吉岐対馬研修

当宮で事務局を受け持つ東京都八幡会(会長・平岩昌利代々木八

幡宮宮司)の研修旅行「八幡信仰を追って」が十月十八日より二十日に吉岐・対馬方面で実施され、当宮よりも宮司他が参加しました。

今度の研修には十八名が参加。初日は対馬の海神社、住吉神社参拝後同島に宿泊、翌日は厳原港より吉岐に渡り天手力男神社を参拝、最終日は吉岐島内の神社参拝を行いました。が、ちょうど兵主神社の例祭に当たり、吉岐神楽の陪観が出来るなど貴重な体験をし、無事帰着しました。



海神社を参拝

新年度神符奉戴式を厳修

平成十九年度の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々にお頒かちするご神札

の奉戴式が十一月六日斎行されました。

神符奉

戴式では、御神前に於いて大宮大麻・大宮三

宝



荒神などの神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様に奉告後、氏子崇敬者を代表し高橋責任役員及び神札頒布責任者の森川カツノ氏と小松延江氏にご神札が授与されました。

新年には各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいご神札をお祀りして清々しい一年に致しましょう。

第二十八回 杉並大宮菊花展

第二十八回杉並大宮菊花展が十月二十五日より十一月二十六日の一カ月間、当宮特設展示場で開催されました。

この菊花展は杉並区の後援、京王電鉄(株)、サミット(株)の協賛を頂き杉並大宮菊の会主催により毎年催されています。

今年も盆養菊、盆栽菊、懸崖、七五三の文字菊や小菊盆景も多数出品され、会員の皆さんが丹精込めて育てた二百鉢の菊花が爽秋のもとを競っていました。

また、十一月七日の審査会で宮司賞以下各賞の受賞



が決まり、十二月一日表彰式が執り行われました。

宮司賞

杉並区長賞

会長賞

審査委員長賞

みどりの会会長賞

京王電鉄賞

サミット賞

〃

日本国香会賞

末柄賞

藤枝賞

八幡前通商栄会賞

金賞

新人賞

協力賞

井上良介氏

五本木秀子氏

中村幸之輔氏

五本木徳治氏

倉本晴雄氏

瀧澤政次氏

本橋利夫氏

井上良介氏

本橋利夫氏

植島清利氏

倉本栄子氏

渡辺忠雄氏

七名

二名

十六名

秋の豊かな実りに感謝

新 営 祭

勤労感謝の日の十二月二十三日午前十時より新営祭が斎行されました。この祭典は、五穀豊穡を祈る春の祈年祭と二対をなし、大神様に秋の実りの新穀をお供えし感謝するお祭り。

伊勢の神宮の御園で誕生した神稲「イセヒカリ」の早苗を埼玉県熊谷市在住の吉野森男氏より奉納頂き、当宮幼稚園の稲田で園児達が丹誠込めてお田植えをして育て収穫された稲穂をはじめ、篤志家やボーイ・ガールスカウト、氏子・崇敬者よりの新米や御酒・赤酒、

野菜・果物など数多くのお供えものをご神前に献納されました。また、豊穣に感謝すると共に、事業の繁栄にも感謝して当宮崇敬の企業、又りんどウ会会員等百名を超える多数のご参列を頂き、盛大に祭典が斎行されました。



神社庁六〇周年で受賞

東京都神社庁設立六〇周年記念の東京都神社関係者大会が十月二十六日、明治神宮会館で催され、高橋住雄責任役員（方南北地区）が表彰されました。高橋役員は敬神の念厚く多年に亘り神社の維持経営に尽瘁し斯道興隆のため貢献せられた功績大として表彰されました。



また鎌田宮司が勤続四十年以上、岡田権彌宜が三十年以上の神明奉仕者として表彰を受けました。

寒川神社兼務社 八幡大神研修旅行一行参拝

相模國一之宮寒川神社の兼務社である八幡大神（多田一馬宮司）の責任役員・総代ら三十二名が去る十二月二十五日、研修旅行として来宮されました。

正式参拝の後、宮司の歓迎挨拶と説明を受け、菊花展等境内を散策して清涼殿で休憩。次の都庁へと向かわれました。



山形県知事齋藤弘氏もご来駕 第十六回 杉並花笠まつり

第十六回目を迎えた地元の初冬の風物詩「杉並花笠祭り」（主催・サミット（株）（株）サミット・コルモ、大宮八幡宮）が十二月九日（土）に開催されました。

当日、午前十時より御社殿において「第十六回大宮八幡宮杉並花笠奉納奉告祭」を斎行の後、メインステージに

て山形県知事齋藤弘氏・杉並区長山田宏氏・JA全農山形会長遠藤芳雄氏等による御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が



次々と執り行われ、特に午前十時と午後一時の二回、西永福商店街から当宮までの花笠踊りのパレードが東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部とサミット役員の皆さまによって奉納されました。また、境内・参道では山形の郷土料理の芋煮や地酒が無料で振る舞われ、山形特産の農産物・特産品などの露店がところ狭しと立ち並び、雨天にも拘わらず二万六千人の参拝者で賑わいました。

どんど焼きに協力をお願いします

近年、問題視されているダイオキシン等の環境保護対策を含め、今後とも伝統行事のお焚き上げ神事を存続させる為にも、お納めの際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えにくいもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの（プラスチック製品等）は、その場でお待ち帰り頂いておきますので、予めご諒承の上お持ち込みになりませぬ様ご協力をお願い致します。



「納所では感謝を込めてお納め願います。
「納所は当宮の古神矢・古神札類及び正月飾り（しめ縄等植物性のもの）をお預かり致します。
「人形（ぬいぐるみを除く）類は別途に人形感謝祭を行ってお納め頂いておりますので、折付受付へお申し出下さい。
「詳細は社務所へお尋ね下さい。

厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮に於いて、厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

平成十九年 厄年表（数え年）

		前 厄	本 厄	後 厄
男 性		昭和59年生(24歳)	昭和58年生(25歳)	昭和57年生(26歳)
		昭和42年生(41歳)	昭和41年生(42歳)	昭和40年生(43歳)
		昭和23年生(60歳)	昭和22年生(61歳)	昭和21年生(62歳)
女 性		平成2年生(18歳)	昭和64年生(19歳) 平成元年生(19歳)	昭和63年生(20歳)
		昭和51年生(32歳)	昭和50年生(33歳)	昭和49年生(34歳)
		昭和47年生(36歳)	昭和46年生(37歳)	昭和45年生(38歳)
		昭和23年生(60歳)	昭和22年生(61歳)	昭和21年生(62歳)

※厄年（やくどし）は、古来人生の節目として特け気をつけなければならぬとされている年回りのことです。本厄の前年は前厄、後年は後厄に当ります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることができます。

大宮八幡の杜 春に向けて

新春初詣の人並みも一段落の一月七日早朝、境内斎場で宮司以下祭員奉仕により武蔵野陵遥拝を斎行。

十五日、小正月の古神札焼納祭（どんど焼き）で一年間ご守護戴いた御神札や神矢等感謝を込めてお焚き上げを致します。この日

文化財防火デー消防訓練



初午のぼり奉納募集

毎年二月の初午（本年は二月五日）は、お稲荷さんのご縁日として親しまれています。



お稲荷さんは、ご存知のように商売繁盛・家内安全など、八幡さまと並んで広く親しま

はりんどう会初めての奉仕活動として「厄除ぜんざい」が授与されます（先着二百名）。



節分の豆撒き神事

自衛消防隊や消防署・消防団による消防訓練には地元大宮一、二丁目町会の皆さんも参加されます。二月三日は節分祭、追儺の儀や豆撒き神事が行われ除災福豆が授与されます。そして今年には五日が初午祭。十一日には日本の建国を祝う紀元祭が斎行されます。

れた信仰のある神様で、当宮でも末社に大宮稲荷が祀られています。本年も大宮稲荷神社の初午祭を賑々しく執り行ないたいと存じますので、左記により商売繁盛・家内安全などを祈願されまして「朱色のぼり」を是非ともご社頭に供奉納賜りますよう、ご案内致します。お願い申し上げます。

記

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円（出来れば二口以上でお願い致します）のぼりには、御氏名（又は御会社名）を入れさせていただきます。

平成十九年春の祭典と主な行事

1月1日	神能「翁」
	厄除開運大祈禱（番祈禱）
	歳旦祭
1月2日	小笠原流量目の儀・大的式
1月3日	元始祭
1月7日	武蔵野陵遙拝
1月15日	古神札焼納祭（どんど焼き）
1月25日	初天神（大宮天満宮）
1月26日	文化財防火デー消防訓練
2月3日	節分祭
2月5日	初午祭（大宮稲荷神社）
2月下旬	梅盆栽展
2月11日	紀元祭
3月中旬	木瓜盆栽展
4月3日	畝傍山東北陵遙拝・本宮遙拝
5月3日	
5月5日	春の大祭（尚武祭）
5月19日	大宮八幡宮の杜新能
5月26日	裏千家献茶式
毎月1日	朔旦祭（どなたでも自由に参列出来ます）
毎月15日	月次祭
毎月最終の土曜日又は日曜日	
大宮八幡宮フリーマーケット	

毎月・お朔日参りを

致しましょう

東京都神社保育連合会 園長教職員研修会を当宮で

東京都神社保育連合会（会長 川合玄紘）の平成十八年度園長教職員研修会が去る十二月六日午後、当宮清涼殿を会場に開催されました。

同会は都内の神社関係の幼稚園・保育園で組織される団体。

当日は園長会のあと先生方百十名参加のもと、研修会が行われ、平成八年のNHK体操のお兄さんであったミツル&りょうた氏の「音楽と体操の実践―幼稚園・保育園での音楽と体操―」講演を聴き、当宮への正式参拝（当園園児が朝日子舞奉奏）の後、懇親会が開かれました。又、ロビーでは園児のミニ作品展が展示されました。

戌の日には 子育八幡さまで 安産祈願のご祈禱を！

安産腹帯（岩田帯）も授与所にて
お頒けしております。

子授け祈願・初宮詣も随時
お受け致しております。

5月	4月	3月	2月	1月
4日(金)	10日(火)	5日(月)	9日(金)	4日(木)
16日(水)	22日(日)	17日(土)	21日(水)	16日(火)
28日(月)		29日(木)		28日(日)

平成19年戌（いぬ）の日
（1月～5月）



土の中からおもいの紫色がチラリと見えうと必死なお友だちもいれば、土から出ているつるの辺りを少しだ

十月十九日、秋のスキリとした青空が気持ち良かった事を覚えてます。この日、子どもたちが前から楽しみにしていたおもい掘りに出かけました。畑に着くと早速、おもい掘りを開始。



け手で掘っては、「先生おもいもないよ」というお友だちも。けれど頑張っておいもが掘れると、「子どもたちは大喜び。」「先生見てー」という嬉しそうな声が畑に溢れていました。手や顔を泥だらけにしながらい興奮だった子どもたち。土を掘っておもいを収穫する楽しさを体験できたのではないかと思います。「秋の実り」や「収穫」に感謝をする気持ちを忘れずに育っていつてもらいたいと感じた一日でした。

教諭 西田 久美子



緑豊かな都心の杜。 正統派神前式

成人式
卒業式

衣装・美容着付・写真・
初宮饗膳（ご会食）など
承ります。

清涼殿

03 (3312) 7515

結婚式挙式者芳名（敬称略）

（平成十八年七月一日～）

十一月三十一日

高橋順一・知子
富松範幸・絵梨子 富田勉・晴代
黒田充則・真純 伊藤光起・路美
金原勝彦・幸代 三木匡宏・奈美子

初宮詣芳名

(平成 18 年 7 月 21 日 / 平成 18 年 11 月 23 日)

お健やかな成長をお祈りいたします

仲西祐太 田畑裕希 水越深緒 三小田凌太
内田怜那 三井陽渡 有賀環夏 島津愛叶
谷合智樹 浅野花采 藤澤陸 森詩音
魚谷央史 藤村龍矢 青木瞭汰 浦野葵
加藤康輔 篠原彩希 小嶋優奈 志村翼
貝田希花 相川慶太 松浦善克 岩崎純也
野上航生 天野利帆 篠原嶺王 福田弦太
田端稜希 小森悠太 佐藤亘 山崎理央
岩佐理玖 竹添心俐 佐藤充 三木聖梨沙
四本煌毅 雨宮悠人 尾崎大朔 三木梨央
岩田恋羽 篠原大智 望月蒼空 小嶋俊輔
三村祐翔 對馬慧 當間巧望 難波流輝
山浅壮朗 香坂樹輝 大竹虹夢 荒川未菜美
堀本惺子 黒住高良 弓削広太 池田多希
山形桜輔 内山珀 吉田千夏 高麗紗音
米谷葵 川原優人 飯塚円 平沢萌佳
鈴木勇翔 市江優莉愛 川原聖乃 西田悠人
那須真翔 前田萌花 矢作謙汰 原田誠也
那須晴翔 久木原卓 星尾愛奈 渡邊生琉
寺門幸助 山本一葉 片野優弥 吉永葵
ベツシメ 石田弦乃 森瑛希 池田倫
柚須彩音 島名陽菜 佐々木美優 上條心晴
箕浦涼乃 高山悠大 岡野叶夢 大日向瑛
高橋由梨佳 古澤裕実 洪武みゆき 井上翔
杉澤拓夢 大原麻直 香田杏 永井安聞
武市志優 川谷一花 西尾晃樹 小野諒
早川あみ 中村生 竹田遥 新地海人
沼田理央 重野蓮 澤井彩乃 佐々木音
ドリイメ 伊藤優波 田中陽斗 渡邊竹琉
山本颯翔 宮澤夏 建守快 丸山千陽
中村友護 高橋隆之介 国元かれん 黒川紗良
後藤心菜 木ノ本響 池田倫太郎 筒井健太
須藤隆宏 米山日向葵 森川湊 秋山真愛
藤田稟祐 長谷見俊樹 富永有紀 森山彩夏

實戸心花 伊藤美海 阪口愛実 赤津友美
宮島一真 松島晃希 吉田通翔 山下佑彩
古川夏羽 米谷風汰 田誠人 一戸未歩
中渡瀬海斗 上林敬都 小菅瑠男 藤田彩
鈴木勘吉 佐々野廉 和田葵 村上航一
網屋護 遠藤正隆 竹内智哉 小日向莉菜
山本美結 山川雄大 阿久津諒 三上陽南太
佐藤太知 神保昌吾 瀧澤杏 河野辺悠麻
前原凜夏 森屋空良 清水太一 秦明日海
武井愛海 山田剛士 上田千夏 守屋咲希
逸見弘幸 山田珠大 田中優彩 布施雅
金子琴珠 鈴木翔 鈴木里奈 曾田翔
荒井裕翔 小村武輝 佐山恭大 古田善大
新妻悠人 新井日菜 中桐広人 高橋美乃里
大賀裕介 澁谷里沙 江隅夢吉 奥田健斗
篠崎隆之介 高原陽佳 清水吉喜 村松恵理子
遠藤明彩 沢田歩花 重田快斗 澤野元
井上太輝 大島英士 門深晴 澤野慶太
村上裕暁 森七海 桑山拓也 片岡宙
坂本賢悟 小林彩花 布施佑乃 渡邊仁美
佐藤綾香 須藤光 安藤吉一 高部凛
末松幸樹 田中貴朗 風見弥 小林應介
野沢充志 飯田玲 古寿田のか 江島瑠伸
千葉玲奈 山根莉菜穂 三上虎希 小川内康弘
山田詞音 高鹿真帆 于美奈 中山結子
山田倫崇 竹野千咲 堀江未莉南 岩井明日香
小泉隆之介 江村咲幸 中村祐輔 川西麻由
榎戸琉伽 矢島直樹 高田遼 横幕悠人
高柳仁菜 中口翔太 堀越健太 坂本エナ
小林千咲音 内田翔貴 横山隼 坂本エナ
木元夏帆 五嶋星来 雨宮優太 大塚翔太
山田結菜 岸田煌生 中村華 内藤蓮王
萩原邑奈 徳永来由 坂田菜緒 佐藤快
久積若奈 梶間星那 坂田望 杉山紗耶音
齊藤悠奈 川上峻 城戸日向 菊地咲音
林来由 鈴木颯真 中城敦 岡野優桃
中野諒 山田野乃 青木片夏 堀江優桃
土田悠真 渡邊開斗 高根沢友 青木そら

藤本竜馬 蛭川瑠奈 小西咲希 近藤梨亜
加藤吏生 木村玲菜 今井那步 山内琴絵
劉裕里奈 佐藤真央 鬼山京子 西龍之介
清水乃愛 武田望叶 武田英後 内藤脩斗
魚住純也 三浦宙 大庭樹利 崎西幸輝
木本悠介 小平龍太郎 井芹勇希 安原美優
山口誠 蝦澤夏子 久下恭叶 和田姫乃
吉田稀音 新田愛夏 主浜蒼空 浅賀涼之介
私市佳乃子 佐多花怜 中山和奏 原田皓介
西崎悠斗 金子瑞紀 長澤晃平 山本海陽
小柴斗斗 岡部稜 本橋夏光 田村真
中村綾花 平澤都 瀧山澤太 栗田奨生
荻紗弥華 本多晃一朗 堀川悠輝 鈴木美麗
青木淳弥 鈴木杜菜 石田晃大 横山日和
蜂屋陽萌 関根もも 大高かれん 高橋利央
土屋桂徳 白山央人 大星優輝 佐藤遙磨
土屋絢音 鈴木真帆 遠山照人 鈴木智一
深澤希海 安西初音 渋谷大輝 鷹野葵
島居悠人 藤井威之介 渡部桃加 冨澤ひかり
石川蓮 田畑優衣 藤平悠生 西山愛菜
小川凜香 大草和博 小泉文果 宮原玲奈
上田夏葵 藤本翼 瀬在賢斗 今村利緒
鈴木凜生 本瀬航輝 蛭谷和貴 富田沙
岩永和花 多賀喜音 酒井君子 富田澤
濱野一葉 川井陽奈 梶田曉杜 田田奈々美
齋藤万優香 中島杏菜 桐生紗枝 渡邊理央奈
相澤夏帆 岡野彩衣 沼田凌士 小川智生
坂口響輝 須藤悟 青山愛理 丸山晃史
安美優 小林誠也 島田寿理 遠山凛久
出山侑香 恩藤彩聖 富田航正 山岸佑主
川口開 持田遼人 内藤拓也 弓納持要
佐藤勇太 鹿島采人 佐藤秀匠 竹内康騎
大島夏鈴 高旗優多 鈴木峻也 柳瀬早希
高橋佑也 富山琴子 大野佑馬 齋藤勇
土屋葵由奈 後藤歩来 内山由菜 大湊日和
水野皓介 楠野友也 笹井奏那 豊島拓武
和田千里 飯島光太郎 山口夏帆 山根壮哉
元木祐花 内田早紀 西田紗葵 宮崎睦子
浅川芽久 林優惺 宮原甫空 齊藤涼之葉

大内花音 横室拓海 岩村一志 大峽幸之助
内藤爽子 田中莊介 田村郁通 細田基貴
深山晴未 佐藤果英 菅原寛太 鈴木颯也
高橋渚 小池雄真 加藤光咲 駒井南
中村浩大 浦山美樹 鳴原誠恒 岩田美奈
西岡愛夏 木村拓斗 増田翔磨 依田咲子
佐々木正隆 石堂遥人 藤崎優悟 久保蒼琉
宮崎宝 中林陸 永井杜明 半田杏梨沙
清水ひなた 小櫻彩貴 戸田樹樹 早田恵都
土橋陽 杉山佳帆 佐藤大輔 杉本陸
沓掛桜美 板羽真字 井坂奈楠 林寛敏
平野佑馬 板東想太郎 福井希美 高橋伶
堀内聖樹 高橋ひかり 水橋梨央 徳仲そら
倉持結貴 佐々木淳介 塩田伊織 矢野真梨菜
安部智則 一之瀬泰典 池上佑吾 奥山翔太
須田彩未 遠藤快青 大川原帆 菅原由有
都ひかり 小川朔 大橋拓実 清水海人
押山竜一郎 浅賀祐星 加藤綾萌 櫻木健
石塚朗 三橋敬樹人 藤本紗恵子 下島玲菜
山下華 井上小玉 鈴木麻央 神尾隆成
倉成美空 金川桃美 尾崎隆作 岡田紗英
田島寛成 武田一真 谷川陽花里 白神杏莉
一町田章太郎 内田周悟 岩本俊信 辻垣藍留
荒川真緒 中後暁 新田琉夏 伊藤彩菜
阿部峻士 中後陽 遠藤裕仁 廣澤旺祐
鈴木理久 藤本彩歌 森田琉生 黒田晃玖
野村想 坂本海音 小林想 守屋尚吾
大原佳月 半田康祐 柏木康希 梶谷奏心
吉田百花 安藤愛華 土岐優真 青山花
齊藤咲 五十嵐琉飛 清水侑未 近藤翔翔
五十嵐琉珂 糸川菜名 安藤連音 増田大祐
山下葵 神内里菜 石井颯真 鎌形青
長田彩椰 松原優斗 米岡百愛 田原崇山
大澤瑞希 平川恵 山崎太陽 山本祥瑚
石津ひなた 金井奎澄 野崎利彦 石岡航大
中野晴仁 脇本理沙 田中宏典 和嶋直人
平野優美 加藤太郎 稲葉志菜 竹下樹希
犬塚万尋 林彩夏 竹中悠菜 神部碧里
麦倉碧 市川清代 中垣惠未奈 竹内晴香

平成 19 年 迎春

新年にはご祈祷（ご祈願）をお受けになり、清々しい一年に致しましょう



元旦の開門の前に献灯の神事が



元旦零時、神能「翁」の奉奏



新春厄除開運大祈祷（一番祈祷）・宮司奉仕



元旦午前 8 時、歳旦祭の斎行



元旦、庭野会長様他立正佼成会幹部ご参拝



2 日午前、小笠原流大的式が

大 宮 第 77 号
平成十九年 新春号
平成 19 年 1 月 1 日発行
大宮八幡宮社務所

〒 168-8570
東京都杉並区大宮 2-3-1
電 話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

元旦午前零時宮司の打つ初太鼓を合図に開門、平成十九年の年明けです。まず、神能「翁」が奏された後、一番祈祷を奉仕。午前八時に歳旦祭が斎行され、国の隆昌と世界の平和、氏子・崇敬者の平安が祈られます。翌二日小笠原流の除魔神事「臺目の儀」並びに「大的式」、三日には元始祭が。又、十五日には古神札焼納祭（どんど焼き）が古式に則り斎行されますので、一年間の除災招福を祈りご参詣下さい。



15 日月次祭に引き続き、古神札焼納祭（どんど焼き）が